

日 刊

# 新東京

No.734

2011年  
10月4日(火)

日本郵政グループ  
労働組合  
新東京支部  
広報部

03-5606-6784  
内線 4353

【猫舌】なコラム

社会人(労働者)の被爆体験記

## 「空白の天気図」

柳田邦男、文春文庫

今回紹介する「空白の天気図」は、昭和五十(一九七五)年に新潮社から刊行された同タイトルが、文春文庫(文藝春秋社)として復刻されたもので、前回紹介した「恐怖の

2時間18分」に続く『核と災害シリーズ』の第三弾として発売されたものです。太平洋戦争末期、昭和二十年の広島地方(管区)气象台に勤める職員たちを主役に、八月六

日の原爆投下、及び九月十七日に広島西方を通過した枕崎台風による水害といかに

向き合ったかを描いたノンフィクションです。

今回、東日本大震災と、それに伴って起きた福島第一原子力発電所炉心溶融事故を受けて、著者、柳田邦男氏と文藝春秋社が『核と災害シリーズ』として復刻したこの「空白の天気図」、私が出会ったのは、以前の新潮文庫版で、かれこれ十五年も前になるでしょうか。「マツハの恐怖」「零戦燃ゆ」を読んで以来、柳田



邦男氏のノンフィクションを  
 買いあさっていた時期に出会  
 ったこの本は、自分の中で一  
 ・二を争う愛読書の一つで  
 す。なので、私個人は、太平  
 洋戦争研究がライフワークと  
 なっているためもあり、今回  
 の復刻理由である地震・津波  
 及び原発事故と、六十六年前  
 の太平洋戦争による原爆投下  
 は別物、という強い違和感が  
 あるので、本書を太平洋戦争  
 ノンフィクションとして紹介  
 します。しかし、本書発売時  
 期が台風12号による紀伊半  
 島の大水害の直後とは……。偶  
 然にしても、地球の自然の、  
 人智を超えた大きな力を感じ  
 ます。

この「空白  
 の天気図」の  
 白眉は、終戦  
 時の物資不足  
 で、気象観測  
 に必要な環境  
 や衣食住がますます圧迫され  
 ていく中で、追い討ちをかけ  
 るような原爆投下、その上敗  
 戦のショックもままならない  
 時勢で、気象観測を続け、尚  
 かつ原爆と枕崎台風の被害調  
 査を行った、広島気象台員た  
 ちの職責の高さです。  
 思えば、私は「空白の天気  
 図」を読んでから、ただ漠然  
 と戦争や核兵器の惨劇を知る  
 のだけではなく、戦時中就労  
 していた人の労働意識を知



り、現在の労働運動や平和運  
 動の参照にしたいという勉強  
 意識が高まったのでした。そ  
 の意味では吉田満氏の「戦艦  
 大和ノ最期」に続き、自分の  
 人生の方向を定めた本といえ  
 ます。  
 本書は、昔の新潮文庫と同  
 じく活字が小さいので、老眼  
 にはつらいのと、気象・病理  
 ・原子力と理系の話が多いの  
 で、理系嫌いの人には取っ付  
 き難いと思われませんが、それ  
 を埋め合わせるに値する、戦  
 中戦後の貴重な被災体験談を  
 得られます。ぜひ、核兵器賛  
 成派も反対派も、一読をおス  
 スメします。

（投稿）

## 節電と原発再稼働の不等式

東京電力で電力需給を担当する藤本孝副社長は9月29日、共同通信のインタビューに応じ、冬場のピーク時の電力供給力について「(昨冬の最大需要を上回る)5200万~5300万キロワットを確保できる」と述べ、一定程度の節電があれば、電力の安定供給は十分に可能だとの見方を示した。

(9月30日 東京新聞)

当たり前の話だ。一定程度の節電というよりも、我慢をしない程度の節電で十分この冬は乗り切れる。「何を今さら」と思うのだが実は今年の6月、東電の西沢社長が「柏崎刈羽原発の再稼働がなければ、夏以上に冬の電力供給が厳しい」と言及していた。この発言、原発の再稼働と電力の安定供給を無理やり結び付けている。実は、原発は止めたままでも供給に問題ない。

今夏のピークは8月18日の4920万KWだったが、5460万KWまで供給力があつた。夏場は企業も一般家庭も午後2時頃から消費のピークを迎え、一気に需要が高まる。しかし冬場は、一般家庭のピークは朝と夕方になり、企業と良い意味でのズレが生じてくる。従って夏場ほどピーク値が高くない。前回の冬の最高値は、本年2月14日の5150万KWだ。おそらく今度の冬は5000万KWを超えることはないだろう。

年 度 別	冬 期			夏 期			日 量		
	最大電力 (万kW)	発 生 月 日	対 前年度 増加量 (万kW)	最大電力 (万kW)	発 生 月 日	対 前年度 増加量 (万kW)	1日当り 最大 電力量 (百万kWh)	発 生 月 日	対 前年度 増加量 (百万kWh)
11	5,005.0	12. 1.12 (水)	85.8	5,925.0	11. 9. 1 (水)	5.0	1,069.1	11. 9. 14 (火)	▲1.4
12	5,129.5	13. 1.15 (月)	124.5	5,924.0	12. 8. 3 (水)	▲1.0	1,091.8	12. 8. 3 (木)	22.7
13	5,038.0	13.12.21 (金)	▲91.5	6,320.0	13. 7.24 (水)	▲396.0	1,131.4	13. 7.24 (水)	92.9
14	5,220.0	14.12. 9 (月)	182.0	6,320.0	14. 8. 1 (木)	▲110.0	1,167.6	14. 8. 1 (木)	▲16.7
15	4,967.6	16. 1.19 (月)	▲252.4	5,736.0	15. 9.11 (木)	▲584.0	1,073.7	15. 9.12 (金)	▲93.9
16	5,185.8	17. 3. 4 (金)	218.2	6,149.9	16. 7.20 (火)	413.9	1,155.5	16. 7.21 (水)	81.8
17	5,236.0	18. 2. 6 (月)	50.2	6,011.8	17. 8. 5 (金)	▲138.1	1,134.6	17. 8. 5 (金)	▲20.9
18	5,027.5	19. 1.17 (水)	▲208.5	5,805.8	18. 7.14 (金)	▲206.0	1,099.6	18. 7.14 (金)	▲35.0
19	5,332.2	20. 1.29 (水)	▲304.7	6,147.1	19. 8.22 (水)	341.3	1,164.2	19. 8.22 (水)	64.6
20	5,029.1	21. 1. 9 (金)	▲473.1	6,089.1	20. 8. 8 (金)	▲58.0	1,157.6	20. 8. 8 (金)	▲6.6
21	5,240.1	22. 1.12 (火)	211.0	5,449.6	21. 7.30 (木)	▲639.5	1,051.9	22. 2.17 (水)	▲105.7
22	5,150.4	23. 2.14 (月)	▲89.7	5,998.8	22. 7.23 (金)	549.2	1,141.8	22. 7.23 (金)	89.9

節電は素晴らしいことであるが、政府や東電が呼びかけることに違和感を覚える。京大原子炉研究所の小出さんは、これは原発をなくすと停電になるぞという東電の脅しだと主張している。右の図は、火力発電と水力発電だけで最大電力需要をカバーできることを示している。原発が生み出す電力をすべて火力発電でまか

発電設備量 [100万kW]

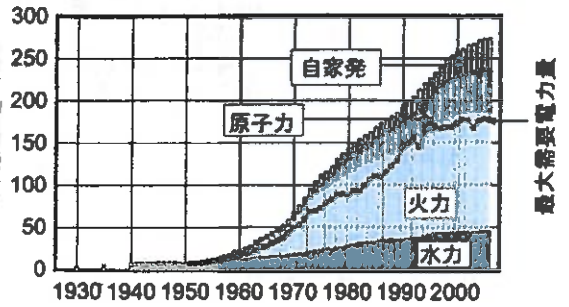


図15 発電設備要領と最大需要電力量の推移 (最大需要電力量は電気事業に関するもののみ。)

ったとしても、火力発電所の設備利用率は7割程度に収まるらしい。このように言うと、原発はCO2を排出しないからエコだと思ってしまう。発電時には排出しないが、原料のウランを採掘し、精錬・濃縮し、ペレットという燃料に焼き固めるまでに膨大なエネルギーを消費し、CO2を排出する。

国民を騙してでも原発を稼働させたい理由は、電力会社・原発メーカー・政府・学者それぞれに存在する。他方で、福島事故の被害はむしろこれから正念場となるだろう。こちらは人の命がかかっている。そのような時期にまだ再稼働だと言っている輩がいる。「悲しい」の一語に尽きる。

14版 2 (総合)

## 新首相は再稼働へ道開け

### 電力制限解除へ

東京電力と東北電力が既に実施している電力使用制限令が、前倒しで解除されることになった。盛夏の昨年ほどに気温が上昇したことから、国民の節電努力により、電力需要が減少したことが理由とされている。

だが、夏に比べて電力需要が増える冬場は、再び

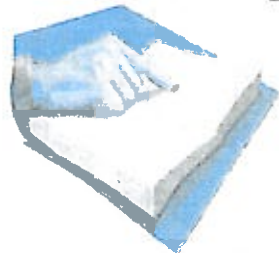
生じた。このため、経済産業省は7月から企業などの大口需要家に対し、昨年夏陣営よりも電力使用を削減するよう義務づけた。自動車業界が平日の工場稼働を週末に一部移し、夜間稼働を増やす企業も相次いだ。エアコン使用を控えた家庭も多く、東電管内では今夏の電力需要を最大1000万kWに減らした。電力危機は家庭

運転中なのは間違いない。このままでは来春に全壊が止まる。電力需要が増える冬は東日本と西日本で、それぞれ数十万kW規模の供給不足になると予想されている。かくて原発が停止した場合、来夏には全国で今以上の節電を迫られるのは必至だ。そうならば、農家の深刻な打撃は避けられない。菅首相の唐突な「節電発」宣言で、これまで国に協力してきた原発が立場を固める目途は、大層感も

主張 <2011.9.1

防災の日

11/12~13に正社員登用試験(筆記試験)を受験されるパートナー組合員の方へ試験対策の勉強会を開催いたします。10月下旬を予定しています。詳細は近日中にお知らせいたします。



10/23(日) 午後予定

## ゆうパック部 合同分会会議開催

先月の26日に組合事務室にて分会会議を行いました。支部大会後、初めての会議であり、また南北合同での分会会議はゆうパック部統合後、初の開催となりました。

議題は、第8回中央委員会について、春闘・郵便再生バージョン1関係のことや、年末繁忙期に向けて、業対会議における現場の意見・要求事項の確認、8月1日から行われている南北の社員交流についてなど様々な議題を話し合いました。

会議時間の中で大部分を占めた議題が、8・28の輸送効率化における問題点でした。昨年の日通との統合後、ゆうパックと通常の輸送便を完全に分離して一般支店への輸送を行っていましたが、輸送効率化・輸送費節約の観点から統合以前の輸送便が行われる様になりました。

第3ゆうパックの仕分け作業は大きく分けて都内・関東・地方と分類し、24時間表記で各時間ごとに優先順位をつけて仕分けを行っていますが、送達速度のサービスレベル改変によって運送便の削減（地方便）、大型車の縮小（車種下げ）、Over night 便の差立時刻が一時間早まったことなどにより、業務状況の悪化を招いています。このことにより業務に追われ、正規の休憩時間に休めなかったり、休憩時間を削られている状況です。

業務内容も余計な仕事（手間）が増えました。以前ならそれ程、詰め合わせをしなくても結束便に搭載出来ていたゆうパックが、詰め合わせを行っても搭載出来なくなったりしています。その結果、結束外のゆうパックを抜き出し、結束以降の次便に搭載、または輸送部への交付を行っています。抜

日 刊

ア  
新  
東  
京

No.737

2011年  
10月7日(金)

日本郵政グループ  
労働組合  
新東京支部  
広報部

03-5606-6784  
内線 4353

き出し作業・輸送部交付は手間と時間、さらには人手がかなり費やされるので、はっきりとって時間の無駄使いであると思っています。

また結束させるゆうパックが大口などの物量増加により協定台数を大幅に超えた場合、輸送部の協定台数を譲ってもらったりなど、他の部にまで迷惑を掛けて、結束郵便物を搭載している状況です。

職場環境も最低な状況です。間違いなく新東京支店内で一番劣悪でしょう。床面タイルは至る所ではげており、一年以上床タイルが補修されていない箇所もあります。その背景にはゆうパック部のキャパシティを超えた物量进行处理しなければならぬ状況があります。絶えず物量があるため一時的にスペースが空いたとしてもすぐにスペースは塞がれてしまいます。要処理パレットの保管場所に置ききれないものは通路上に置くことになり、時には通路を塞いでしまう事もあります。そのため、パレットが右に左に移動するゆうパック部では、いつ労災が発生してもおかしくない状況下にあります。

キャパシティを超えた、または機械処理能力の限界を超えた物量は、ときにとんでもないアクシデントを起こします。先々週の月曜日、深夜0時頃に区分機が煙を噴き、一切の機械処理ができなくなったことがありました。急遽、結束時間が迫っていた物は反対側（北側）で処理してもらったが、それ以外の物は全て手区分することになりました。他部から応援にきてもらいましたが当然時間内には処理が出来るはずもなく、この日の結束は全て不結束・延発対応となり、お客様と相対する一般支店に迷惑を掛けることになりました。

このサービスレベル改変以降、超勤を掛けるケースが多くなりました。お金を稼ぎたい人にはいいかもしれませんが、超勤を掛けずに済むような業務状況の見直しを早期に行って欲しいです。

今期も執行委員をやらせていただくことになった第2ゆうパック分会の植松です。未熟者ですが精一杯努めますのでよろしく願います。

日 刊	<b>JP新東京</b>	No.738	2011年10月11日(火)
		日本郵政グループ労働組合 新東京支部広報部	
		TEL 03-5606-6784 内線 4353	

## 政治基盤の確立に全力 9月～11月は「みらい研」加入拡大行動実施！

9月末に臨時国会が閉会し、また、私達の希望する「郵政改革関連法案」の成立が先延ばしになりました。事業会社の経営改善のためには何としてもこの法案の成立が必要です。政治に左右され、翻弄されてきた「郵政事業」を真に私達の求める形態にするためには政治力が必要であり、しっかりと確立しなければなりません。

「郵政みらい研」会員の拡大につなげ、JP労組の影響力を広げよう！！

- 取組集中期間            11月末日まで
- 各分会拡大目標            各5名

～みらい研とは～

郵政未来研究会の略称でJP労組の政治活動を推進していくために設立された政治団体です。日本郵政グループの各企業は、民営化されたとはいえ公的な色合いの強いことから政治の影響を受け続けることは間違いありません。

JP労組としてもそのことを十分に理解し政治活動の重要性について期を捉えて訴えています。今後のJP労組の政治方針として地方組織内議員あり方について検討していくこととしています。その検討の基盤となるのがみらい研です。

みらい研の規模が今後のJP労組の政治活動のあり方を決定していくものだといっても過言ではありません。

## ◆夫も積極的に家事をする 20代

得意料理は「カレー」

楽天リサーチと楽天は「男の家事実態に関する調査」(20歳以上の既婚男性を対象に有効回答者数 1,000人)を実施した。ふだん家事をしているかについて聞いたところ、20代は「(積極的に)行っている」(68.0%)、50歳以上は「(あまり)行っていない」(59.2%)が最も多くの回答を集め世代間の違いがはっきり見える結果となった。ふだん行っている家事(複数回答)は、①ゴミ出し/ゴミ捨て(71.3%)②お風呂/トイレの掃除(61.7%)③食器洗い(61.3%)④食料品や日用品の買い物(57.0%)⑤洗濯(47.4%)⑥リビング/寝室の掃除(46.4%)⑦料理(食事づくり、43.4%-の順。手間だと感じる家事(複数回答)は、「食器洗い」が32.9%でトップ。次いで「お風呂/トイレの掃除」(31.8%)「リビング/寝室の掃除」(25.2%)が挙げられ、片付けや掃除が上位となった。料理の頻度は「年に数回」が最も多く21.8%。「過に1日程度」(14.7%)「全くしない」(13.1%)と続く一方で、「ほぼ毎日」も9.7%に上った。料理をする理由(複数回答)は「妻や家族などを喜ばせたい」(42.3%)との声が目立った。得意な料理は「カレー」で、50.1%がそう答えた。

～J P 総研 Research より～

## 「心ひとつに」企画

## 東北ボランティアへ行こう

「東北の震災復興の手伝いがしたい」、「なんでもいいから役に立ちたい」等、「心ひとつに」の想いをもちながらも、なかなか一人では実行できない。そんな組合員の声をよく聞きます。新東京支部では、第4回定期支部大会において東北震災復旧・復興に向け最大限の行動をすることを決めました。今回、突然ですが10月21日～23日にかけて東北ボランティアに行くこととします。

本日、10月11日(火)19:00頃まで参加希望者を募集しています。参加してみたいと思う皆さん、分会役員・又は執行委員までお知らせください。

## 《参考》

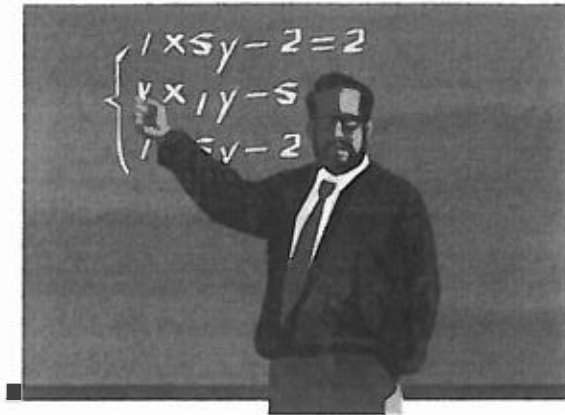
○予定・・・21日(金)に夜行バスにて目的地へ向かい、22日(土)早朝到着。着替えてボランティア活動実施。16:00目途で活動終了し、宿泊先へ。23日(日)午前のみ活動し帰路へ。

なお、行き先等の詳細は集約終了後決定し、参加者にお知らせします。



正社員登用試験を受験されるパートナー社員の方へ

**筆記試験 勉強会のお知らせ**



**10月23日 日曜日 13時30分より  
17時頃まで**


**支店事務棟2階研修室にて（変更する場合があります）**

**鉛筆またはシャープペンシルと消しゴム、メモ帳を持参して下さい。**

内容 これまでに行われた筆記試験を参考に、演習問題を解いていきます。それほど難解な問題は出題されませんが、よりスムーズに解答するために、どのような問題にどう対処するかを学びます。

**参加を希望される方は、18日までに分会役員  
または執行委員に声をかけて下さい。**



日 刊	 <b>新東京</b>	No. 7 4 0	2011年10月13日(木)
		日本郵政グループ労働組合 新東京支部 広報部	
		03-5606-6784	内線 4353

## 東日本大震災…… 危機管理体制の拡充・強化を

JP労組は斉藤社長に「東日本大震災」をふまえた危機管理体制の拡充・強化に関する要求書を提出しました

3月11日に発生した東日本大地震から半年余が経過したが、津波による被害はことのほか甚大であったことから、復興はおろか復旧さえもいまだ道半ばといった状況にある。

また、福島第一原発の事故による放射能被害は収束の見通しが立っていない事態が続いている。

あわせて近年上陸する台風は、これまで以上の大きな被害をもたらすなど、これまでの経験を上回る事態に直面している状況である。

まさに、今回の地震・津波および大型台風被害は、これまでの災害対策では対応できなかったという現実と経験をふまえ、これまでのグループ各社の危機管理態勢をより充実させ、グループ内を統一した態勢確立を図る必要があり、グループ社員の「いのち」がしっかりと守られ、安心して業務に専念できる環境をつくり上げることは会社としての責務でもある。

今後もユニバーサルサービスを担っていく郵便事業にとって、真に安心・安全・情報発信の拠点としての組織をつくり上げることが社会に求められていると考えているところである。

**J P 労組新東京支部**

江東区環境清掃部企画の

**『みんなでまちをきれいにする運動』**

への参加者募集！

日頃より組合諸活動へのご理解とご協力をいただき心から感謝いたします。

さて、私たち J P 労組の活動は、地域の理解のもとに成り立っています。さらには郵便事業にとっても、地域社会との密接な繋がりがもたらす信頼関係が非常に重要なものとなっています。

新東京支部では、全国大会で検討されている福祉型労働への行動展開を踏まえ、江東区主催の『みんなでまちをきれいにする運動』に参加することといたしました。江東区で働く人として、地域社会の一員として地域の美化活動に積極的に参加することとします。

ついては、下記の通り『まちきれ運動』に参加いたしますので、多数の組合員の参加をお願いします。

## 記

**実施日時**

2011年 11月 6日 (日) 10:00~

集合時間 9:30 (新東京支店職員通用口前)

**活動内容**

明治通り歩道の清掃

(新東京支店→新木場駅間の歩道の清掃)

**参加者集約**

2011年 10月 28日 (金) まで

分会役員または執行委員までお知らせ下さい。

**その他**

- ・当日は 12:00 頃まで清掃を実施し、昼食を食べて解散とします。
- ・清掃に必要な道具は支部で準備します。汚れてもいい服装で参加して下さい。
- ・清掃行動と併せて、町を汚さない行動も重要です。たばこや空き缶等のポイ捨て根絶にご協力下さい。

以上

# みんなの英知を結集し良い支部委員会に！ 第4回支部委員会報告

10月2日、江東区産業会館において、第4回支部委員会が開催されました。この支部委員会では、第8回中央委員会（10月13日～14日）の議案審議、支部運営細則改正案、政策部業対会議などの職場の課題について論議をしました。

支部委員会の議長には2普分会の隈元委員が選出され、隈元議長は「議案書論議は難しいですがみんなの英知を結集して深め、良い支部委員会

にしていきたいと思えます」と議長の決意を語ってもらいました。

下山支部長から「第8回中央委員会議案に対する支部見解を文章の形にできなくてお詫びしたい。支部執行委員会での論議を軸に提起していきたい。①3・11東日本大震災、心ひとつに復興活動をお互い努力し継続してきている、②9月19日に明治公園で開催された「さようなら原発」集会に参加してきた。立錐の

余地がないほどの参加者に大きな感銘を受け胸が熱くなった、③平和の取り組み積極的に取り組む。脱原発1000万署名や6・23沖縄慰霊祭、いろいろな思いはおのおのあるだろうが論議して取り組んでいく、④中央委員会議案、バージョン1の具体化を図り事業再生を切に願う。300件近く要望があがっている。春闘は第9回中央委で額を決定していく、⑤郵政改革法は議員の顔が見えない。事業会社だけが赤字なのになんでかんぼやゆうちよが減らされるんだとの声が大きい、⑥政治基盤の確立、⑦深夜勤パターンのみなおし、⑧65才定年制後の職場、⑨11名の社員登用があつた。道筋を作ったのはJP労組だ。限られた時間ですが、支部代表者会議へ意見反映できるよう活発な議論をお願いしたい」と提起がありました。

各委員の質問と答弁は、後日掲載

## JP労組新東京支部運営細則改正

新東京支店の課の統合に伴う組織改正があったことから、運営細則第2章第2条及び第5章第12条を改正します。

### 第2章 組織機構

#### 【分会等の設置】

第2条 支部は、支部の執行を補助するため、以下の分会を設置する。ただし、分会は執行権を有しない。

- (1) 業務企画分会
- (2) 郵便企画分会
- (3) 第1普通郵便分会
- (4) 第1特殊郵便分会
- (5) 第2特殊郵便分会
- (6) 第1輸送分会
- (7) 羽田分会
- (8) 窓口分会
- (9) 第2普通郵便分会
- (10) 第1・第2ゆうパック分会
- (11) 第3ゆうパック分会

### 第5章 役員

#### 【分会役員】

第12条 3 第2特殊郵便分会及び第3ゆうパック分会には次の役員をおく。

- |            |     |
|------------|-----|
| (1) 分会長    | 1名  |
| (2) 副分会長   | 2名  |
| (3) 分会書記長  | 1名  |
| (4) 分会書記次長 | 2名  |
| (5) 幹事     | 若干名 |

省略

#### 【施行】

第18条 この細則は、2011年10月2日より施行する。

---

---

日 刊

# JP 新東京

No.

2011年  
10月21日(金)

日本郵政グループ  
労働組合  
新東京支部  
広報部

03-5606-6784  
内線 4353

## みんなの英知を結集し良い支部委員会に！ 第4回支部委員会報告 各委員の発言(分会ごと)に集約)

10月2日、江東区産業会館において、第4回支部委員会が開催されました。

支部委員会の議長には2普分会の隈元委員が選出され、議事が進行していきました。

支部委員会の概要は以下のとおりです。

【委員の発言(分会ごと)に集約】

二特分会 脱原発みんなで考えていこう、原発問題の学習会を開催してほしい。書留区分機の集中処理試行に現場の声が反映されていない、高性能区分機ではない。春闘は「乖離がある」との反省だが3・0月をベースにするのではなく4・4月か

ら考えてほしい。正社員登用試験「どうせ受からないから…」とあきらめる人が多くいる。レポート作成や学習会などのフォローをしてほしい。

一普分会 東日本大震災、心ひとつに活動していく。JP労組独自のボランティアはどのようになっていくのか、ボランティア休暇の拡大を求めてほしい。支部レクを被災地でやるとかいろいろ考えましょう。特別報奨金はどうなっているのか。ポ一ナス減らされ次は給与かと不安が大きい。新規採用はとらないのか。赤字が出てもユニバーサルサービスやっていくのか。今でも人事評価がきちんとできていないのにやっていくのか。

一ゆうパック分会 65才定年の後補充されていない、2.3パックもバンクしている。小包区分機の故障が多い。年末は局舎狭隘で不安、ち

ルドもスペース無い。3Fの道路穴あいている、舗装工事をしてほしい。

三ゆうパック分会 春闘は、去年並の要求を求める。ゆうパック3・4億個／年を5億個へとなっているが今のままでは処理できない、新局でも作らなければただの目標ではない。

二輸送分会 赤字だといって1250億円経費削減したが人件費で削減するのは限界だ。JRを出しているが車は空（カラ）で出て行くときがある。郵便輸送は事業会社に組み入れたらどうか。

窓口分会 人事給与制度は全体的に賃金を下げられる危惧がある。50円のゆうメール、300円のゆうパックがいまだに存在している。極端に低い料金で引き受けている当社専属の会社をチェックしてもらいたい。

一普分会 ゆうメールたくさん入ってきている。追跡処理はすべて手作業となっている。採算とれているか疑問になる。パケット区分機が9月から更改となったが使いづらい。要員増やさないと打鍵追いつかないでキャンセルになる。

共通分会 超勤減らせと云ってくるが、あれやれこれやれと仕事を持つてきて結局超勤となっている。

一特分会 書留集中処理の試行で上三江戸川が毎日結束されていない。毎日不結束している。廃止してもらいたい。

二特分会 一特分会の書留集中処理の試行、上三江戸川毎日不結束は前回の支部委員会でも話になっていたが、会社側への報告は「うまくいっている」となっている。増えた業務に対して要員措置等しないで管理者は「結束させる」と代理に言うだ

け。職場の風土改革、風通しの良い職場にはほど遠い現実がある。

一普分会 年賀繁忙は他の課からも専担者を出してもらいたい。有人車が壊れている。2F空パレット置き場が足りず作業に支障ある。10勤の社会保障、まだ改善ならず。正社員登用も壁ある。日刊紙にカラーで写真載せたい。

二ゆうパック分会 8・28で仕事のやり方変わったのに、仕事を覚える前に南北の交流が始まった。現場に人がいない。深夜勤でトータル10～15分しか休めない。「つぶせつぶせ」と余計な仕事が多すぎる。もう小包やだ！との声も聞こえている。職場の労働条件改善しないと結束できなくなる。

一輸送分会 節電でこの夏は大変厳しかった。冬も実施するのか。

支部の答弁は省略します 以上

日 刊  
**JP 新東京**

No. 7 4 7

2011年  
10月24日(月)

日本郵政グループ  
労働組合  
新東京支部  
広報部

03-5606-6784  
内線 4353

窓口分会レク

バーベキューに40名集う

十月九日の日曜日に第2回となる窓口分会のバーベキューを葛西の富士公園にて行いました。当日は天候も良く、うつつすらと紅葉の色付いた公園は絶好のバーベキュー日和となり、組合員と家族合わせ40名が参加しました。

青空の下で飲む酒は格別なもの。所々で業務に対する意



BBQ は男のセンスが問われます

見や情報交換、趣味に関する話題に花が咲き、子どもたちと戯れての楽しいバーベキューとなりました。

去年はゴミの持ち帰りが課題だったので、今年はバーベキューをレンタル業者に依頼。食材、ビールサーバー、テーブルや椅子にわたるまで全てレンタル業者にお任せ。ゴミも業者が持ち帰ってくれるので、手ぶらで来て手ぶらで帰れるという便利さ。分会役員の方、コレ、超お勧めです。

窓口業務は多岐にわたるので、日頃職場でも交流はありません。今回のレクで組合員の横の繋がりが家族の絆を、少しでも再確認することができたような気がしました。





一家の大黒柱・・・！？

最後に、食べ物やお酒など差し入れをしてくれた組合員さんたちのおかげで充実したバーベキューとなりました。この場を借りて感謝申し上げます。ありがとうございました。



子どもたちとのふれ合いは心が癒されます



最後はみんなで記念写真 (^\_^)V

日 刊 AP 新東京	No. 748	2011年10月25日(火)
	日本郵政グループ労働組合 新東京支部 広報部	
	03-5606-6784	内線 4353

# 「労使関係に関する協約」に基づく 2011年(H24年)度の実施計画方針

郵便事業会社は中央本部に対し、「労使関係に関する協約」に基づく、2011年度(平成24年度)の実実施計画方針を提示してきています。

なお、本計画は、現時点で予定しているものであり、今後の検討過程の中で変更があり得るものとなっています。

実施計画方針(概要)

## 1. 業務量に応じた要員配置の見直し

支店の地況、実情、業務量、要員配置状況、業務運行状況などを踏まえた上で、業務量に応じた要員配置の見直しを行う。

## 2. 支店内作業の機械化

新処理の拡大については、これまでも同様に取り組んでおり、更なる郵便物処理の機械化、情報化を推進する。

## 3. 地域区分事務等の移管

埼玉県さいたま新都心支店、埼玉ターミナル支店及び新越谷支店が受け持っている33・34地域の地域区分事務等をさいたま市岩槻区に新築する支店に移管する。

浦安支店及び千葉西ターミナル支店が受け持っている27地域の地域区分事務等を松戸南支店に移管する。

## 4. 郵便輸送ネットワークの改変

必要に応じて運送便の調整等を行う。

国際郵便に関しては、現時点において具体的な予定はないが、相手国と調整が出来次第、国際郵便の郵袋に代わる輸送容器の使用を拡大する。

## 5. その他

- ・集配事務等の部外委託、郵便区調整の実施、支店の廃止を行う。
- ・通関交換事務の機械化及び主管区域の見直しを行う。
- ・書留等オペレーションの見直しについては、一般支店における書留郵便物等の差立又は配達区分を統括支店で集中処理、機械処理に切り替える試行を一部支店で実施しているところであるが、環境整備を図りつつ試行支店の拡大を行う。
- ・混合配置については、集配体制のあり方の中で見直しを検討していく。

日 刊 JP 新東京	No. 749	2011年10月26日(水)
	日本郵政グループ労働組合 新東京支部 広報部	
	03-5606-6784	内線 4353

# 東日本大震災 被災支部サポート運動

## 福島県 相双支部 (そうそうしぶ)

### 東京地本・南関東地本の取り組み

福島第1原発は、メルトダウン・水素爆発による放射能噴出が大きな問題となっています。また、いまだに原子炉がどのようになっているか確認できず、収束の道筋もまだまだ見えていませんが、JP労組は東日本大震災の被災地の復旧復興へ向けて心ひとつに息長く長期的かつ継続的な支援活動の取り組みを展開してきています。

東京地本と南関東地本は、東日本大震災被災支部サポート運動として福島県の相双支部(そうそうしぶ)に積極的に働きかけていくことにしました。相双支部とは福島県の相馬市、南相馬市、楢葉町、広野町、富岡町、大熊町、双葉町、浪江町、新地町など津波被害と原発被害地域があり、相馬市と南相馬市の一部以外は避難指示20km圏内に位置して立ち入りできません。

津波は海岸から2kmの内陸まで入り込み、被害を出しています。海岸線、住宅地、農地は未整備のまま雑草が生い茂り、打ち上げられた漁船が放置されたままとなっています。被災地の現状としては、鹿島地区では仮設住宅の土地確保ができず農地をつぶし建設している。新地町の釣師浜では復旧作業もままならない津波当時の姿のままの海岸が残り、郵便局や駅舎は跡形もなく流されています。漁港の整備や鉄道、郵便局の再建などは全く進んでいなく、復興計画ができあがらなければ施設建設は行われなとのことです。

相双支部は現在234名の組合員がいます。相双支部「元気が出る企画」として11月13日(日)に福島県郡山市でボウリングとバーベキューを100名規模で企画しています。東京から20名、南関東から10名の参加要請がきていますが、具体的な開催要項やレク参加者集約は別途検討中となっています。詳しくは組合役員にお問い合わせください。

また、避難指示区域の解除がされた時には、地本と協議のうえ相双支部へボランティア派遣することとなっています。相双支部組合員116人の家が震災当時のまま手つかずで残っています。

東京地方女性フォーラム企画

# 女性フォーラムカレッジ クリスマスリース作り&交流会

日程:2011年11月27日(日) 12:30~受付  
13:00~17:55(終了予定)

会場:第一ホテル東京5階「ラ・ローズII」  
(新橋駅地下通路直結 徒歩2分)

内容:第1部 クリスマスリース作り  
第2部 交流・意見交換会

持ち物  
花を切るはさみか、  
キッチン用のはさみ

対象:女性組合員

※お子様連れOK(小学生以下・別室で預かります)

定員:80名(先着)

参加費:1人1,000円(当日徴収)

申込締切:2011年11月17日(木)

参加費は、  
全額東日本大震災の  
義援金とします

お問い合わせお申込みは支部役員まで